

「地域歴史文化大学フォーラム」を開催しました（2018/12/9）

テーマ：歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

場所：神戸大学瀧川記念学術交流会館（兵庫県神戸市）

URL：<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/osirase.html#181209>

2018年12月9日、神戸大学瀧川学術交流会館にて、人間文化研究機構と神戸大学大学院人文学研究科、東北大学災害科学国際研究所の共同主催で、「地域歴史文化大学フォーラム 大学間連携の展望—歴史文化資料保全ネットワーク事業の役割—」を開催しました。本フォーラムは、現在、東北 大学と神戸大学、人間文化研究機構が拠点となって進めている「歴史文化資料保全の大学・共同利用 機関ネットワーク事業」の一環として、全国の大学関係者を対象に、各地の大学が抱える課題を共有 するとともに、地域社会に於ける大学および大学共同利用機関の役割と全国的なネットワークのあり方について議論するために企画されました。当日は全国 26 機関 49 名の参加があり、本研究所からは蝦名裕一 准教授（人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野）、川内淳史 准教授、安田容子 助教（同 歴史資料保存研究分野）が参加しました。

フォーラムの開始にあたり、まず藤井勝 神戸大学理事および佐藤信 人間文化研究機構理事より開会挨拶があった後、本事業3拠点の事業や目的、および本事業と関連して国立歴史民俗博物館が進めている「総合資料学」についての報告がなされました。東北大学拠点からは蝦名准教授より、東北大学拠点の事業のねらいおよび活動状況が報告され、特に蝦名准教授が担当する文理融合の歴史災害研究や、文化財防災マップのレスキューや防災への活用などについて詳しく紹介されました。

報告の後、川内准教授の司会進行のもとで討論が行われ、最後に久留島浩 国立歴史民俗博物館館長より総括コメントがなされました。討論では、地域の歴史文化資料と大学をめぐる現状についてや、文化財保護法の改正のもとでの地域歴史文化の状況などについて意見交換がなされ、今後、大学として地域の歴史文化資料を保全していくために連携していく必要性などが確認されました。

本研究所では、東日本大震災の被災地での歴史文化資料の保全活動および研究を踏まえつつ、本事業の拠点として、全国の大学間ネットワークの構築に努めていきたいと考えています。



会場の様子



蝦名裕一 准教授

文責：川内淳史（人間・社会対応研究部門）